

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773302035		
法人名	(株)大阪ヘルスパーク		
事業所名	グループホームAMG		
所在地	大阪市西成区千本北1-20-11		
自己評価作成日	平成24年4月30日	評価結果市町村受理日	平成24年7月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成24年5月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さま個々の意思・人格を尊重し、一人ひとりの生活リズムに合わせた介護を目指し、心身の特性を踏まえた上で、個性と尊厳をもって自立した日常生活を送って頂けるよう支援している。また、開所当時の入居者さまは、殆どの方が独歩可能であったが、年齢と共にADLの低下等による外出の困難も出てきており、現在、ビル内のエレベーター設置も検討されている為、実現すれば散歩や買い物などの機会がより増やせる様、努力したいと思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の重度化が進むなか、街中の複合ビルの2階、エレベーターのない不便さに外出などの支援が十分にできないことを気にかけながら、日々の生活支援に真摯に取り組んでいる。既存の建物を改装したため、浴室・トイレでの介助に些か使い勝手が悪い面もあるが、利用者ひとり一人の状態に注意を払いながらの適切・丁寧な介助が行われている。重度化する利用者へのより適切な対応について職員間の情報の共有と活用の仕方を再検討する、外出やレクリエーションの機会を増やしたいなど、前向きな姿勢が利用者の笑顔と安心に繋がることを期待する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
				○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様一人ひとりに合わせ、安心と安全の中、個人個人が自分らしく生活して頂けることを第一に支援している	法人としての理念を掲示・共有し、日々実践に当たっているが、地域密着型を意識した事業所独自の理念創りに至っていないのは残念である。	職員による理念の創出とその浸透が、地域の中で自宅に代わるホームで暮らす利用者の生活支援に大きく活かされることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営者が地域の各種団体などの活動に参加しているが、入居者様には散歩や通院等の挨拶等だけになっている	地域における代表者の関係・人脈を活かし、地域に根差した事業所づくりを目指したいと努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩等の外出時には、出来るだけ地域の方々とのコミュニケーションが取れるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、残念ながら開催することが出来なかった	H21年9月以降24年5月現在まで開催されていない。開催されない理由、開催へ向けた努力の跡が見えない。尚、H21年9月の議事録に市担当者・地域包括支援センター職員の参加が記載されていない。	事業所の取り組みや改善課題を話し合い、地域の支援を得る貴重な機会として再認識し、開催に向けての努力を強く望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者等へは、業務や施設の現状報告をはじめ随時連絡を行い、また担当者等の訪問を受けれる時は、入居者様の様子を見て頂いた上で、相談等も行っている	公的援助を必要とする人の割合が多く、業務的な連絡、連携は密である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生命の危険を及ぼす可能性があるとき以外は、身体拘束しないこと理念としている	心・身体ともに拘束することについての正しい理解はある。1階玄関に施錠はないが、2階ホームの出入り口は階段の危険性を考慮して施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法等を踏まえた上で、研修等を通し、全職員への教育を行い、虐待防止に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を必要とされる方がおられると判断した場合には、速やかに活用できる様に取り組んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人様及びご家族様との面談時等には、不安や疑問が無い様、十分な説明をする様心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が居られない方が多く、出来る限りご本人様の意思や思いを引き出せる様に努めている	家族の意向を聞き確かめる機会が殆どない。利用者の日常を見守る中で、意向・要望を感知し、運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートの作成活用を基本に、毎日の就労時の口頭での細かい申し送り等で、均一で漏れの無いケアを行ったり、勤務の状況を聞き、随時調整を行っている	申し送りノートの活用はあるが、口頭申し送りのみで記録としての確認がない。全体的課題の把握と改善のための定期的職員会議やミーティングは行われていない。	申し送りノートから挙がる課題を集約、検討する機会を設け記録で確認し、運営や管理に活かすよう体制を整えることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	より良い介護が出来ることを前提に、職員の無駄な負担を無くし、効率の良い勤務体制や環境が確保される様検討している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全ての職員に対し、グループ内での定期的な研修を行ったり、また機会があれば他の研修にも参加するようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区内のグループホーム管理者会等への参加を積極的に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	形式だけに拘らず、ご本人様の本当の望みが伺える様に、誠意持って接し傾聴するよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様を主としながらも、ご家族様の持つ不安等にも親身に受け止め、信頼関係を築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一方的にならないも、専門的な知識を生かし、ご本人様達に最善のサービスを提供出来るよう努力している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	小さな日常の作業をはじめ、ご本人様達にも出来る事をお手伝いして頂き、より自立した生活が過ごせる様取り組んでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様との係わりを大切に思い、またご家族様からの重要な情報や意見も参考にさせて頂き、ご本人様にとってより良い支援が出来る様努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様をはじめ、知人や、その他縁のある方々が、訪問しやすい雰囲気を作れる様努力している	重度化に伴い従来の馴染みへの関心が希薄になっている。馴染みの掘り起こしと継続に努めながら、ホームで創られた馴染みを大切にしたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングに入居者の皆様が集えるスペースを作り、孤独な思いをしない様にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などにより退去になった場合でも、その後の相談やアドバイスが出来る関係が築ける様努力している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症等の病状に捕らわれず、様々なコミュニケーション法や、非言語的な要素も重要にし、ご本人様の希望や意向を把握できる様努めている	内向的な人が多く発信が少ない部分、日常の姿・様子の変化を見逃さず、関係する者の情報を共有して意向・希望に沿うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様をはじめ、ご家族様や福祉担当者の方等から、面談時及び機会ある毎に情報を収集する様努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックや、日々の心身の変化をしっかりと見極め、異常や急変の早期発見に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りを通し、随時問題点や必要とされるケアをご本人様、ご家族様、職員等で話し合い、最善のケアが出来る様取り組んでいる	申し送りノート・個々人日々の生活記録、1ヶ月ごとのモニタリングを基に、職員との話し合いを加味して計画を作成し、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々ケアをする職員全てが、入居者様方の状態の変化等を把握しやすい様に、記録の取り方にも話し合い工夫している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や往診などの医療機関との連携や相談や、他の施設との合同での催し等にも参加出来る様努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域やその他様々な資源の活用が出来る様、計画はしているが、現実にはうまく生かされてない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関及び、ご本人様やご家族様が希望されたり、必要と思われる医療等の受診には、速やかに行える様支援している	透析患者1名を含め、必要かつ希望する医療機関への受診には適切な支援がある。階下に在る診療所の日常的な支援もあり、利用者、職員の安心の基となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックを踏まえ、定期往診時の報告や、また少しでも異常を感じた時は、協力医療機関等への速やかな連絡を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、主治医をはじめ病棟スタッフ等からご本人様の様態や治療に当たったの内容等をよく聞き、また随時状態の変化や報告を受け、最善の方法で退院へ繋げる様努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様の意思を組んだ上で、ご家族様や主治医と共にご本人様にとって最良の方針が立てられる様努めている	医療的措置が出来ないことで、重度化・終末期対応は不可としている。家族と疎遠の人が多くの中では、医師の判断と行政との相談で最善の対応をするよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が常にマニュアルを把握し、入居者様方の事故や急変に適切且つ迅速に対応できる様取り組んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員全員が常にマニュアルを把握し、災害時の適切な対応が出来る様意識付け、また地域の「自主防災組織」への登録を行い、近隣からの協力も得られる様取り組んでいる	避難訓練は23年度に通報についての1回のみで、利用者対象の訓練は実行されていない。災害に備えての備蓄品については飲料水だけである。	複合ビルの2階でベランダが無い状況では、階段使用より手立てはなく、夜間に至って検討が必要である。規定以外に複数回の避難実施訓練と、備蓄品の再検討を望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみの中にもプライバシーと尊厳を忘れない様に、また男女の違いや性格の違いにも気を配る様に努めている	生活歴からの個性を尊重しつつ、親しさと馴れの混同を戒め、言動に注意するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その場面場面において、ご本人様の様々な側面から伺い取れる意思や希望に出来る限り添える様に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方々は、年齢も性別も様々で居られる為、より個人個人のペースに合わせた支援を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪をしたり、衣服や持ち物の購入の際には好みを聞き、選ぶ様に努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年中の大きな行事には、その時々雰囲気が出せる様メニューを考えたり、また下膳など出来る事はお手伝い頂いている	毎日配送される食材を調理している。その中の材料を工夫して、行事に相応しいものを加えている。職員一人が夕食のみ共にしている。	食事は楽しみ以外に健康維持の面でも重要なものである。複数職員が毎食を共にし、味付け、食べ易さなど食事について記録し検証するなど支援の充実を期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりの体調や病状に合わせた量や栄養、水分等が、バランスよく摂取して頂ける様努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には促し、不十分であると思われる方には介助する様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツ等の着用があっても、基本的にはトイレにて排泄して頂く習慣がもてる様、声掛けをしながら支援している	個々人の状態に応じて、トイレ誘導など適切な排泄介助が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様個人個人の排泄状況にあわせ、飲食物の量や形状を調整する様努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調や希望に合わせて入浴して頂ける様に努めている	週2回を原則に、清潔保持にお風呂好きも加えての入浴介助を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転の無い様気を付けながらも、日中の適度な昼寝等は見守る様にしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての職員は、薬の目的や副作用、用法、容量を把握し、常に気を付けながら、正しい服薬をして頂ける様努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	他の入居者様に迷惑が掛からない様に喫煙のマナーを守って頂いたり、節度ある嗜好品の摂取を楽しんで頂ける様取り組んでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の加齢やADLの低下に伴い、外出の困難が出てきており、早急な建物内のエレベーター設置が待たれる現状にある	外出支援が十分でないことは十分に自覚している。エレベーター設置を待って、丁寧な個人対応をしたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方には、買い物時にご本人様のおこずかいからお支払い頂き、金銭感覚や満足感が得られる様支援し、また施設管理の方を含め、皆様の出納帳の管理をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話のやり取りは、特に制限無く常にやり取りできる様になっているが、ご家族様がおられない方が多く、実際のやり取りは殆どない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室を含め、施設内は常に清潔を保っており、また季節の行事等にはその時々の飾り付け等もしている	かなり広いスペースをリビングとし、行事の写真の飾りつけなど、程よい居心地が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内のリビング空間は、比較的広く取れており、ゆったりとしたソファも多く設置し、入居者様個人個人が自分のペースでくつろげる様になっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様個人個人の生活スタイルに合わせた家具や嗜好品等を配置し、ご本人様が心地良く過ごせる様に努めている	個々人の生活歴からの持ち込品などにより、それぞれの個性が活かされた居室風景がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差にはスロープと手すりを設置し、食卓は個人個人の居室から出来るだけ近い席にしたり、男女別にしたり工夫している		